The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	シンポジウム「デザイン教育の今と昔 近代日本デザイン教育から見えてくるもの 」
Author(s)	平芳, 幸浩
Citation	デザイン理論. 2013, 61, p. 153-153
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53601
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

シンポジウム
「デザイン教育の今と昔
── 近代日本デザイン教育から見えてくるもの ── 」

総合司会：平芳 幸浩／京都工芸繊維大学
発 表 者：森　仁史／金沢美術工芸大学
青木美保子／京都女子大学
鈴木桜子／杉野服飾大学
櫛　勝彦／京都工芸繊維大学

シンポジウム趣旨

明治期の欧化政策のもと，近代的なデザイン教育がスタートして約一世紀。京都工芸繊維大学の前身である京都高等工芸学校が開校して今年で110年，東京高等工芸学校が開校して91年目を迎える。本学会においては，これまで日本近代のデザイン教育の実態について様々な観点から研究発表がなされてきた。それらは，単なる歴史研究の枠を超えて，今日のデザイン教育を再考するための新しい視座を提供するものでもあったはずだ。一方，過去のデザイン資料のデジタル・アーカイヴ化の進展にともない，過去のデザインを参照しながら今日的な製品を生み出す試みが，近年盛んになってきている。このような動きは，ただの復古趣味と片付けてしまえるものではなく，「伝統と新しさ」という日本近代デザインが取り組み続けてきた大きなテーマの新たな形だと考えることもできる。

21世紀最初の10年を経て，これからの日本のデザイン教育はどうあるべきか。未来への指針に過去のデザイン教育についての研究はどのような役割を果たすか。日本近代デザイン教育の研究をしながら，現在のデザイン教育の現場を見続けてこられた研究者をパネリストとして招き，過去のデザイン教育を学ぶことから見えてくる今日的な問題への提言へとつなげたいと考え，本シンポジウムを企画した。

森仁史氏からは，東京工業学校の工業図案科に始まる近代日本のデザイン教育の原点について報告いただいた。青木美保子氏からは，京都高等工芸学校におけるデザイン教育について，鶴巻鶴一の活動を中心に報告いただいた。鈴木桜子氏からは，杉野芳子の教育活動を軸に日本の服飾デザイン教育について報告いただいた。櫛勝彦氏からは，京都工芸繊維大学で現在行われている実践的デザイン教育のプロジェクトを紹介いただき，今後のデザイン教育の可能性について報告いただいた。４名のパネリストによる報告の後，会場からの積極的な質疑も交えて，日本のデザイン教育の変遷と将来像について議論を交わした。

（京都工芸繊維大学　平芳幸浩）